

チェックリストがリスクマネジメントおよびインシデント発生防止に与えた影響

Fish-Bone に基づいたチェックリストの導入

◎川久保 智美¹⁾、松田 陽子¹⁾、山中 宏晃¹⁾、吉富 博人¹⁾、川野 和彦¹⁾、犬丸 絵美¹⁾
飯塚病院¹⁾

【はじめに】当検査室は2009年よりISO15189認定を取得し、品質マネジメントシステム(QMS)の運営に当たっている。QMSを運営する上で、リスクマネジメントの重要性を感じ、2018年10月より積極的なリスクマネジメントを実施している。また、2021年11月からは、さらに確実なリスクマネジメントを目指し、Fish-Boneに基づいて独自のチェックリストを作成・導入し、リスクマネジメントを実施している。今回、Fish-Boneに基づいたチェックリストの導入前後で、リスクマネジメントおよびインシデント発生防止に与えた影響について検証したので報告する。

【方法】検証期間(件数)は前：2018年10月～2021年10月(61件)、後：2021年11月～2023年8月(34件)。実施のタイミングは当検査室で定めた機器・試薬等の新規導入時やシステム変更時など。インシデントに対しリスクマネジメント実施の有無を振り返る期間は2年間と設定。導入前後で予防処置およびインシデント発生の件数・割合を比較。

【結果】導入前後でリスクマネジメントに対し予防処置を実施した割合は前：38%、後：59%と導入後にて高かった。

インシデント発生は前：11件(18%)、後：2件(6%)。導入前で発生した11件のうち8件はチェックリストでリスク抽出できた可能性がある事例、1件は予防処置が不十分、2件は検査室外発生事例であった。

	リスクマネジメント 実施件数	予防処置		インシデント	
		実施件数	%	発生件数	%
前	61	23	38	11	18
後	34	20	59	2	6

【結語】チェックリストを用いたリスクマネジメントではリスクの抽出漏れが少なく、より多くのリスクが抽出された。それに伴い、導入後における予防処置の増加につながったと考えられ、インシデント削減に大きな力を発揮した。しかし、完全に防ぐことはできず、リストのブラッシュアップは今後も必須である。また、確実なリスクマネジメントを求めることで会議等に費やす時間が多くなったことも事実である。リスク抽出の質を維持・向上しつつ、よりスマートなリスクマネジメントの構築が今後の課題である。

【連絡先】飯塚病院中央検査部 0948-22-3800(内線 5261)